

# 滋賀県が進める「流域治水」

元水茎・水茎地区説明会  
(平成25年12月8日)  
滋賀県流域治水政策室

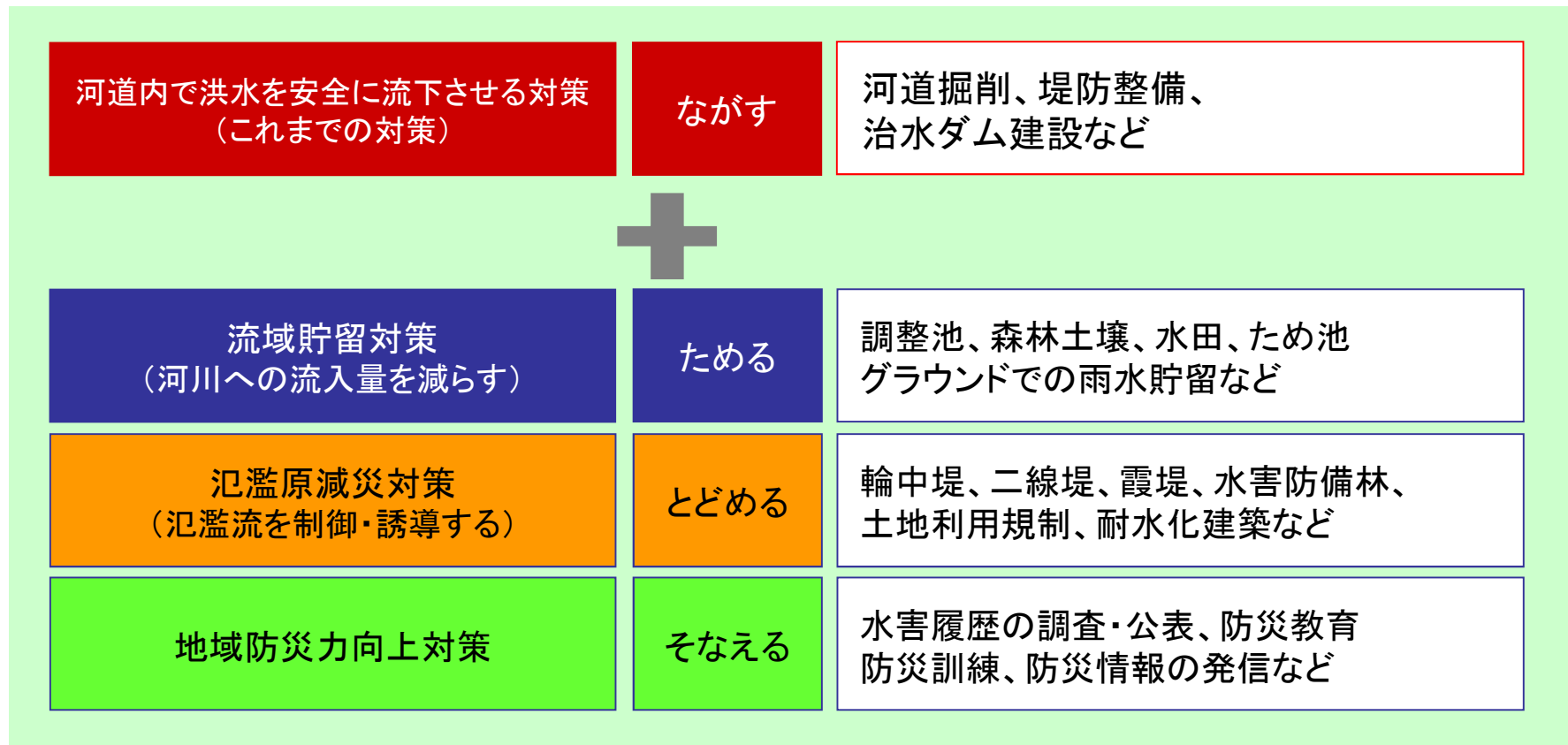
～地域性を考慮した総合的な治水対策の展開～

## 目的

- ① どのような洪水にあっても、人命が失われることを避ける(最優先)
- ② 床上浸水などの生活再建が困難となる被害を避ける

## 手段

- 川の中の対策(堤外地対策)だけではなく、「ためる」「とどめる」「そなえる」対策(堤内地での対策)を総合的に実施する。



# 滋賀県流域治水の推進に関する条例案の概要

◎前文 ・条例制定の背景 ・流域治水を推進する意義 ・条例を制定する目的

## ◎総則

- ・用語の定義
- ・基本理念
- ・県、県民、事業者の責務

◎目的 ・流域治水を総合的に推進し、もって浸水被害から県民の生命、身体および財産を保護し、将来にわたって安心して暮らすことができる安全な地域の実現に資する

## ◎想定浸水深の設定等

- ・県：流域治水に関する施策の基礎資料として、想定浸水深（地先の安全度マップ）を設定  
おおむね5年ごとに設定・公表

実現

基礎資料

ながす

## ◎河川における氾濫防止対策

- ・知事：管理する河川の整備を行う。  
河道の拡幅等を計画的・効果的に推進  
流下能力を維持するための河川内樹木の伐採等  
当面河道拡幅等が困難な区間における堤防の強化

ためる

## ◎集水地域における雨水貯留浸透対策

- ・森林および農地の所有者等：森林および農地の適正な保全による雨水貯留浸透機能の発揮
- ・公園、運動場、建築物等の所有者等：雨水貯留浸透機能の確保

## ◎氾濫原における建築物の建築の制限等

- ・浸水危険区域における建築規制  
区域の指定（200年確率降雨で浸水深約3m以上の区域）  
建築の制限、許可の基準、建築物の調査、立入検査
- ・10年確率降雨で浸水深50cm以上の区域は市街化区域へ新たに編入しない（対策が講じられる場合を除く）
- ・盛土構造物の設置等の際の配慮義務

## ◎浸水に備えるための対策

- ・県：避難に必要な情報の伝達体制を整備・市町への支援
- ・県民：日常生活で備えるとともに、非常時には的確に避難
- ・宅地建物取引業者：宅地等の売買等に情報提供
- ・水害に強い地域づくり協議会を組織し、必要な取組を検討

とどめる

## ◎雑則

- ・財政上の措置
- ・市町条例との関係

そなえる

## ◎罰則

- ・建築規制に関する規定に違反した者への罰則および過料

# 元水荃、水荃地区



平成22年撮影

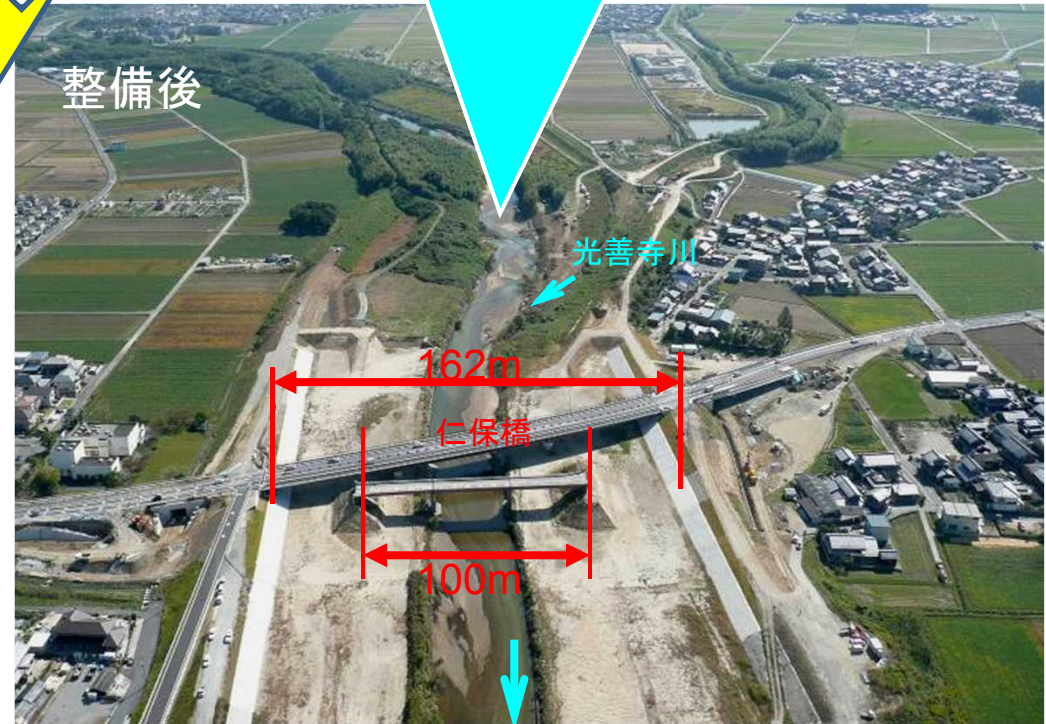


昭和34(1959年)伊勢湾台風  
滋賀県近江八幡市水荃町

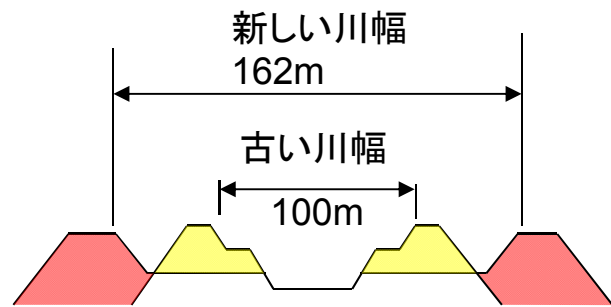
# 日野川河川改修の状況



- 現在、光善寺川合流点上流付近まで実施済
- 鋭意、上流に向けて事業進捗中



【仁保橋付近の断面図】



# 「ながす」対策と流域治水の目標

- 「ながす」対策の当面目標 = **全国標準**
  - 小河川 **10年確率 (時間雨量50mm)**の洪水
  - 大河川(日野川) 戦後最大洪水(おおむね**30年確率**程度)

を川の中に閉じこめる。

- 流域治水の目標
  - どのような洪水にあっても **→200年確率と設定**
  - ①人命が失われることを避け(最優先)
  - ②生活再建が困難となる被害を避ける





# 「地先の安全度」に関する情報

～“床上浸水(50cm以上の浸水)”年発生確率図～

**「地先の安全度マップ」**  
**→水害リスクの見える化**  
**(全国初。平成24年9月公表)**

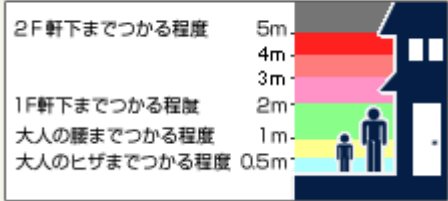
[http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/tisakinoanzendo/top\\_page.html](http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/tisakinoanzendo/top_page.html)

滋賀県流域治水基本方針(平成24年3月策定)から抜粋

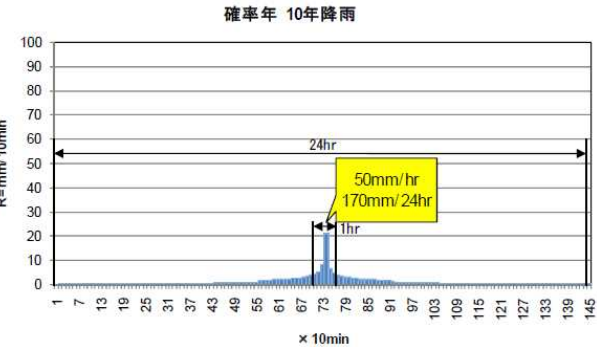
	10.0%～50.0%以下 (〇〇2年に一度)
	〇3.4%～10.0%以下 (〇10年に一度)
	〇2.0%～〇3.4%以下 (〇30年に一度)
	〇1.0%～〇2.0%以下 (〇50年に一度)
	〇0.5%～〇1.0%以下 (100年に一度)
	〇0.5%以下〇1.0000% (200年に一度)



大雨が降った場合に想定される浸水深さ



- 一時避難場所
- 避難所
- 集谷場所等



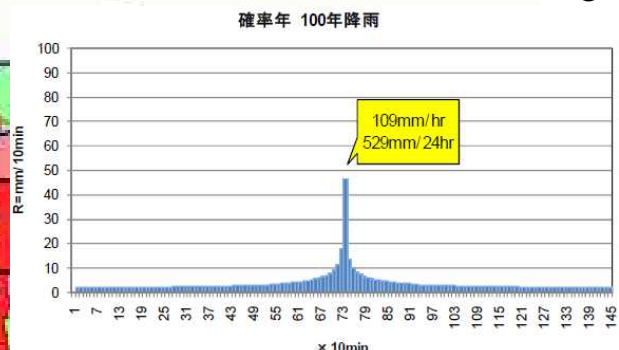
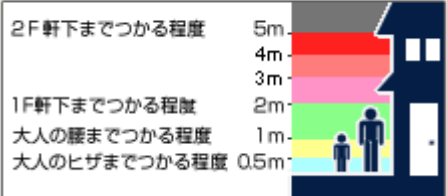
「避難場所」と「地先の安全度マップ」を重ね合わせて、市町の地域防災計画を精査

地先の安全度マップ(10年確率 最大浸水深図)

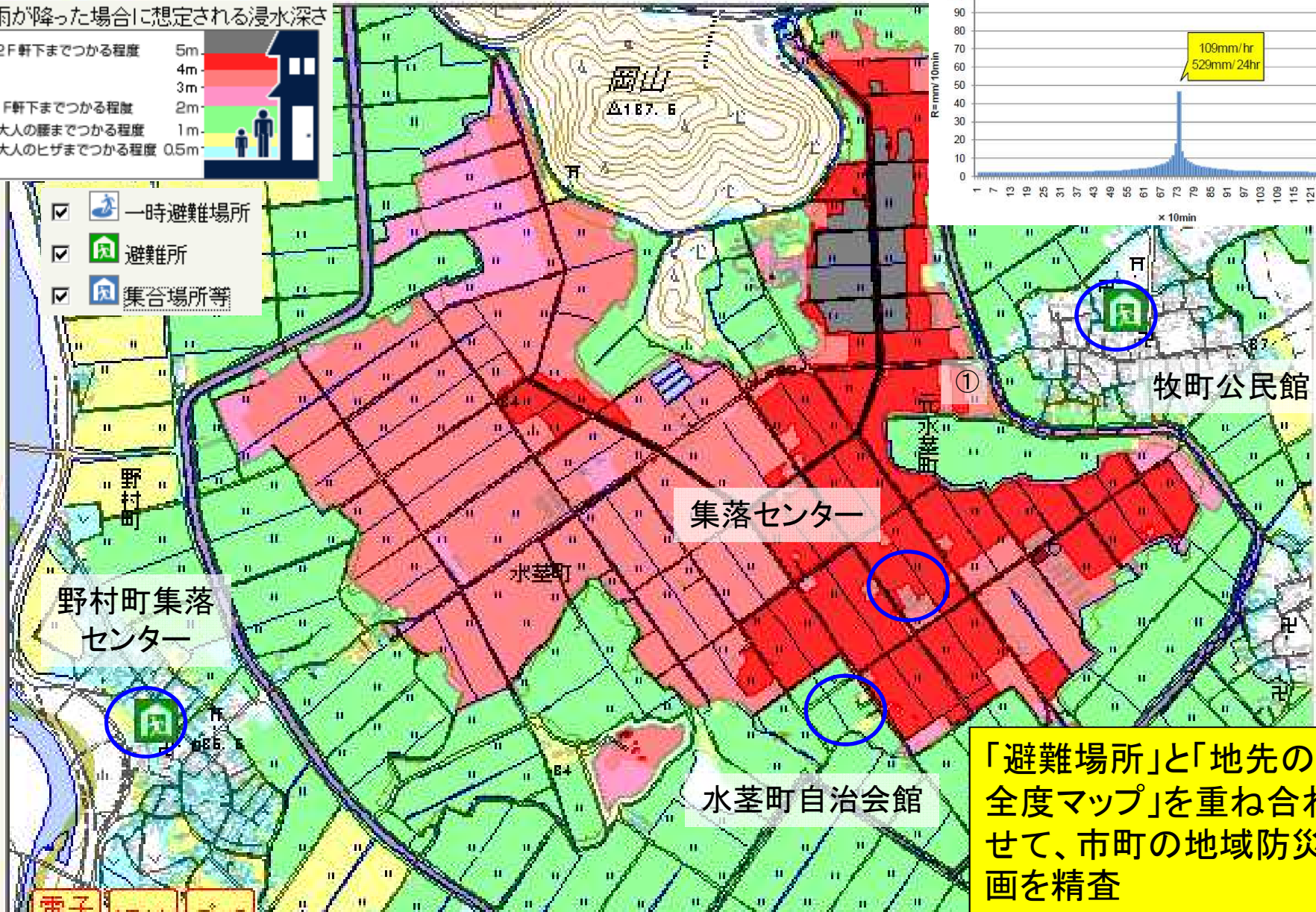




大雨が降った場合に想定される浸水深さ



- 一時避難場所
- 避難所
- 集谷場所等



「避難場所」と「地先の安全度マップ」を重ね合わせて、市町の地域防災計画を精査

地先の安全度マップ(100年確率 最大浸水深図)



# 避難所（元水荃集落センター）



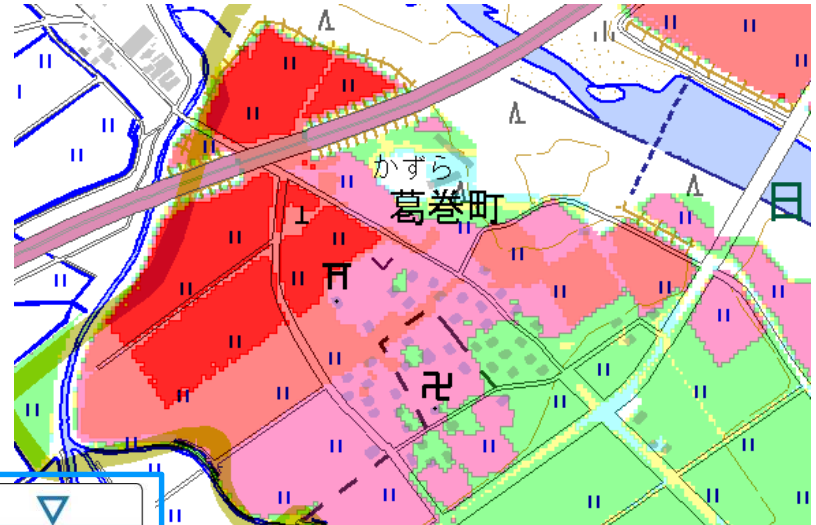
# 避難所(水荃町自治会館)



～水害・土砂災害に強い地域づくり協議会、出前講座～



ガードレールがないので、浸水時は水路に落ちる危険があるなあ・・・  
(近江八幡市馬淵小学校 4年生)



お年寄りが避難所まで行くのは無理だなあ・・・  
(H24 草津市民によるワークショップ)

## 雨水貯留浸透対策を進めます

### ◇雨水貯留対策

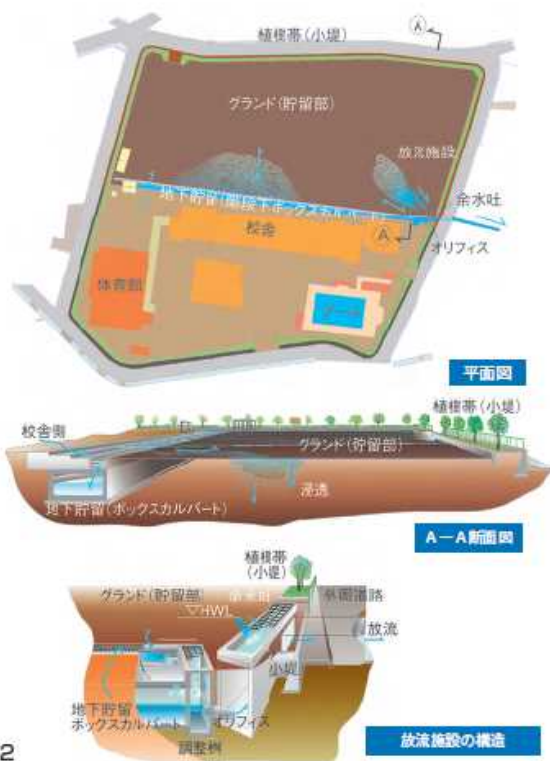
公園、学校、市役所、体育館等の公共・公益施設用地に貯留するケースで、貯留箇所を低く掘り下げて水を溜める掘込み式、貯留箇所の周囲に堤防をつくって水を溜める築堤式、地下にコンクリート等の貯水槽を設置して水を溜める地下式、建物を高床にして、その下に水を溜めるピロティー式等の方法があります。



校庭貯留のようす

写真左：平常時  
写真右：貯留時

□ グラウンドに周囲堤を設けた窪地貯留と地下貯留槽の併用：富士市立岩松北小学校（静岡県富士市）



多目的利用（グラウンド）



周囲堤



放流施設

（出典：東近江市HP 住宅用雨水貯留施設設置奨励金制度）→



### ◇地下浸透対策

□ 庁舎前広場に透水性舗装、浸透ます、浸透トレンチ等を配置：向日市役所（京都府向日市）

向日市では、市役所の敷地に透水性舗装、浸透ます、浸透トレンチなどを設置し、市役所からの流出量ゼロを目標にしています。また、市民の目にふれやすい場所に施設を設置することで、雨水貯留浸透事業の必要性や有効性をアピールし、その普及促進効果もねらっています。



大型浸透ますの施工状況



完成した透水性舗装

（出典：（社）雨水貯留浸透技術協会「雨水貯留浸透施設の設置に対する支援措置のご紹介」）

## とどめる

## 「安全な住まい方」とは

平成22年撮影

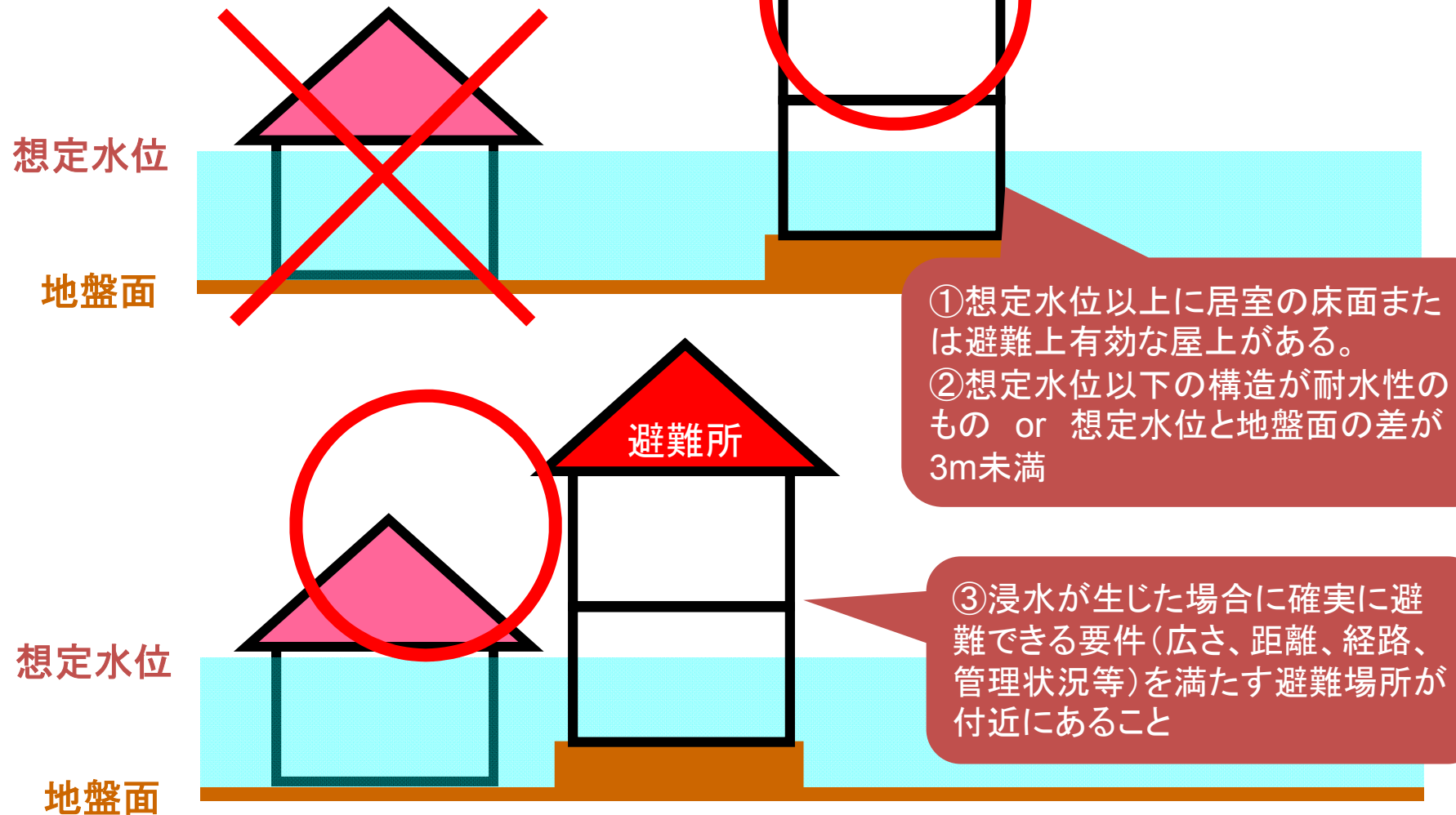


○2階建て家屋は  
避難空間を確保

× 平屋家屋は軒下まで水没  
× 逃げ遅れた場合、命にかかわる

昭和34(1959年)伊勢湾台風  
滋賀県近江八幡市水荃町

# 条例案における 建築規制とは？



①想定水位以上に居室の床面または避難上有効な屋上がある。  
②想定水位以下の構造が耐水性のもの or 想定水位と地盤面の差が3m未満

③浸水が生じた場合に確実に避難できる要件(広さ、距離、経路、管理状況等)を満たす避難場所が付近にあること

建築規制とは、今後建築される際に、  
知事が①～③の安全性適合を確認する制度のことです。

# どれだけ嵩上げする必要があるの？

(=2階の床面を想定水位より高くする)

日本の二階建て家屋の床面最低高は2.99m

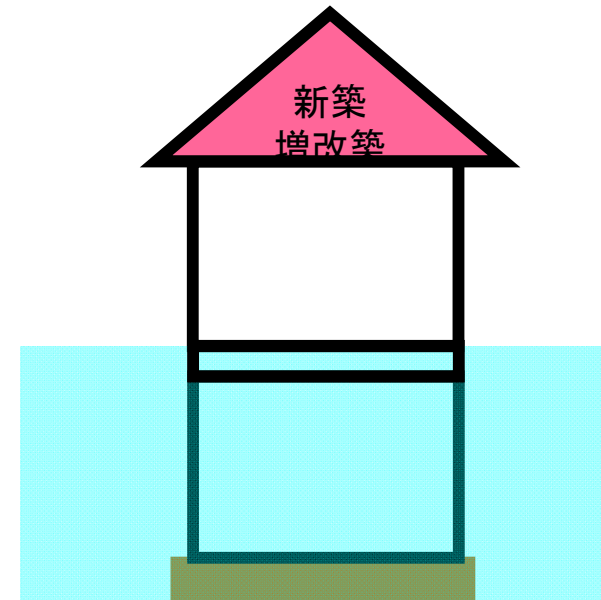
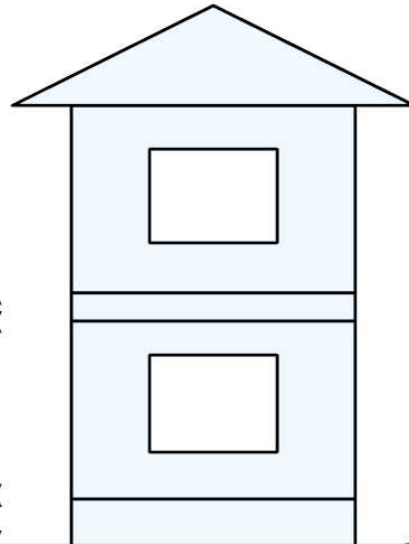
2階床面の最低高は  
2.99m

天井懐: 0.24m

天井高: 2.3m

床高: 0.45m

0.24m  
2.3m  
0.45m



- ① 1階床高は建築基準法により0.45m以上
- ② 1階天井高は9割以上が2.3m以上
- ③ 天井懐は、低く設計しても0.24m
- ④ ①～③の合計は2.99m $\div$ 3.0m

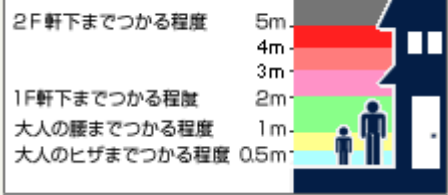
[洪水ハザードマップ作成の手引き(改訂版)p13

平成25年3月 国土交通省]

想定水位	嵩上げ高
3mの場合	0.02m
4mの場合	1.02m

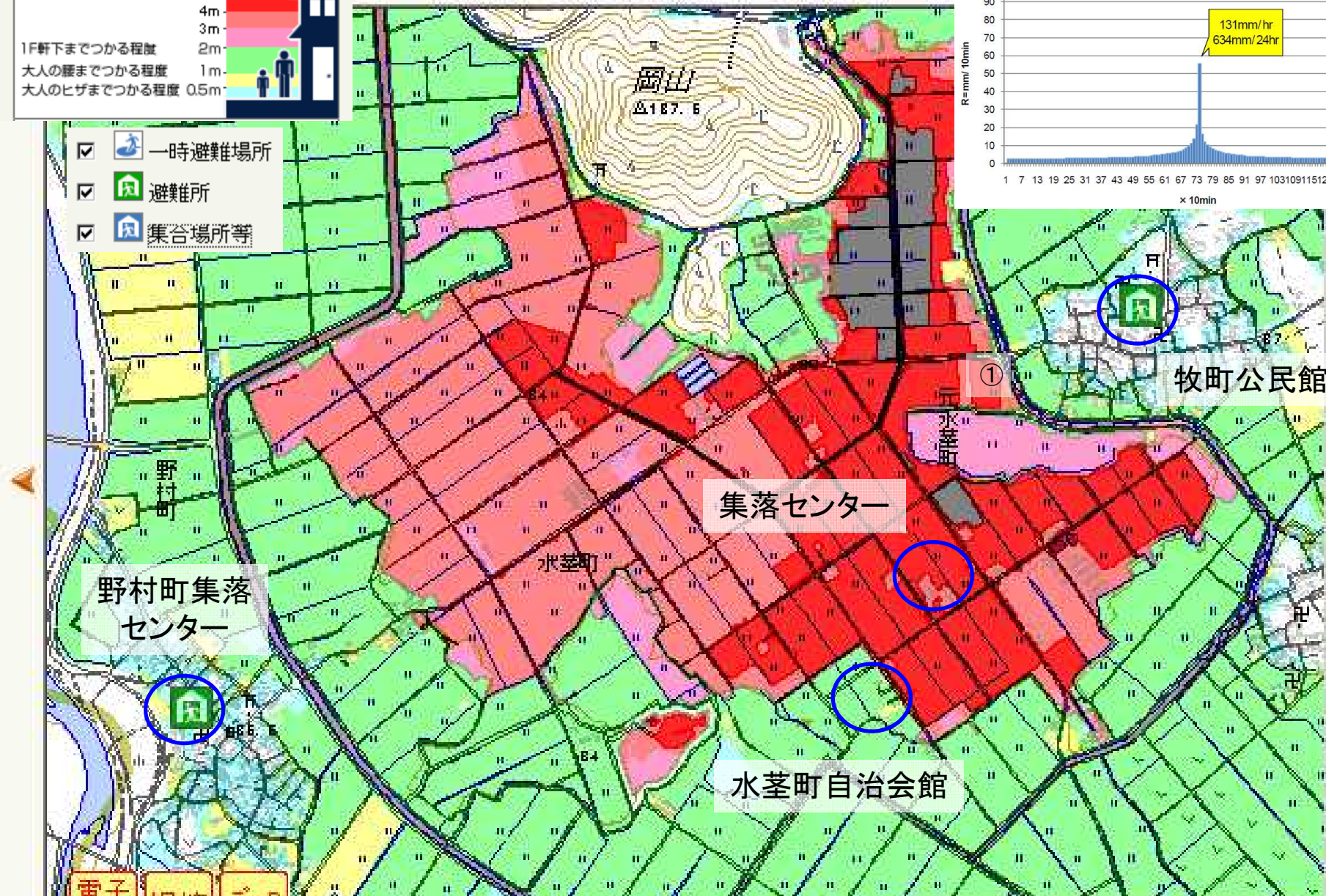
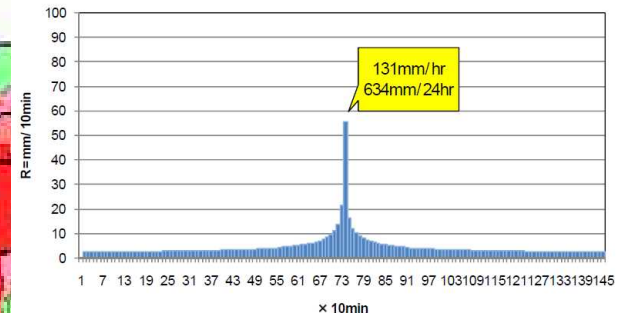


大雨が降った場合に想定される浸水深さ



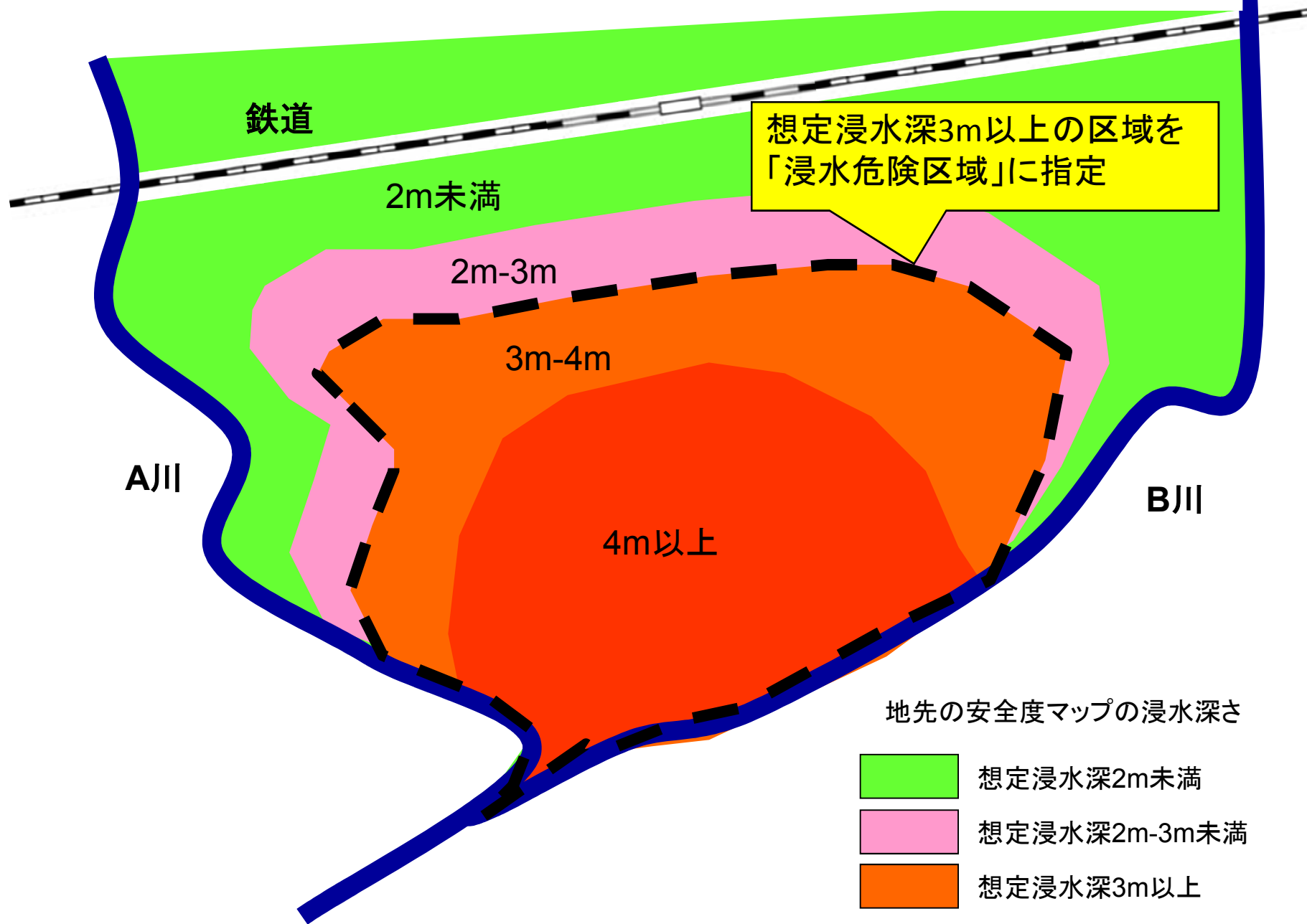
- 一時避難場所
- 避難所
- 集谷場所等

確率年 200年降雨



地先の安全度マップ(200年確率 最大浸水深図)

# 浸水危険区域の設定イメージ



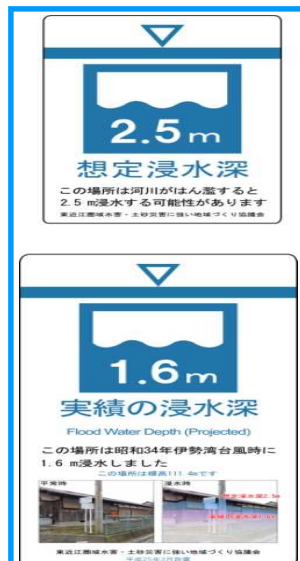
## 区域指定の手順

かならず**水害に強い地域づくり協議会**での検討を経てから、区域指定がおこなわれます。

条例制定

水害に強い地域づくり協議会

地先の安全度マップをふまえ、避難場所の選定、安全な避難経路、避難のタイミングなど、地域の特性を踏まえた避難・警戒体制等の検討



区域指定

# 「命を守る施策」の流れ～「そなえる」と「とどめる」～

時間

そなえる対策(条例以前から取り組み、終わりなし)

とどめる対策(建築規制)

## ★自助・共助・公助連携による「そなえる」「とどめる」対策の検討

水害に強い地域  
づくり協議会  
(第33条)

- ①教育、訓練、学習
- ②避難体制の・避難場所の確認
- ③的確な避難誘導の検討
- ④安全な住まい方の確認
- ⑤区域指定や避難空間確保

想定浸水深(地先の安全度マップ)の把握 (第5・6条)

既存住宅・住民

浸水危険区域の指定(第13条)

避難所整備 or 嵩上げ助成

財政上の措置(第35条)

許可制度によるチエック(第5章)

「そなえる対策」との連携

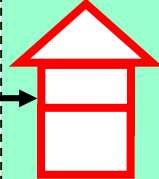
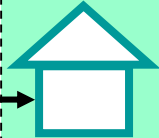
新規住宅・住民

増改築

避難空間の  
確実な  
確保

新築

「水害に強い地域」の実現

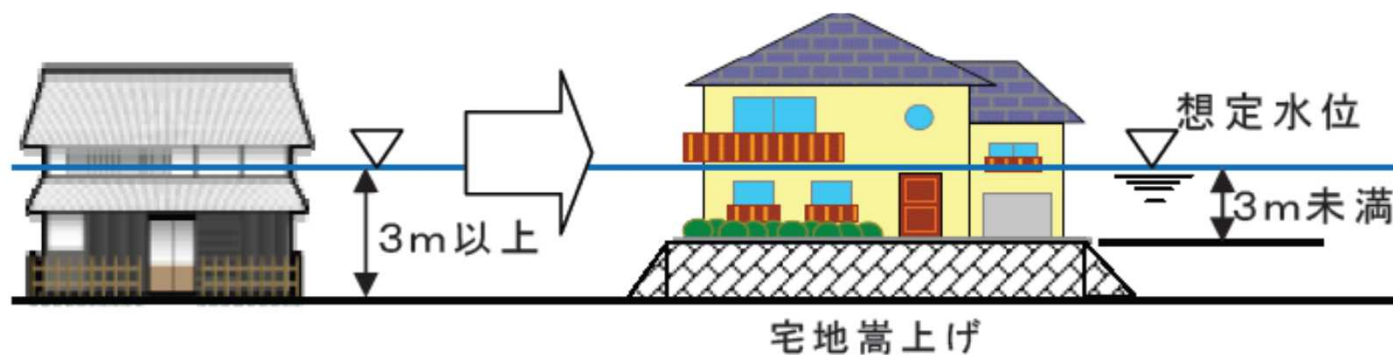


# 浸水深が3m以上の区域に現在お住まいの方

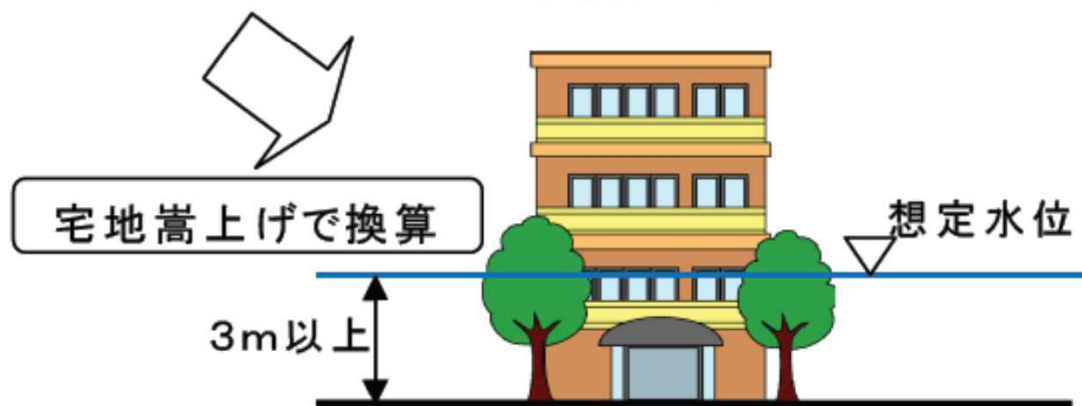
21

## への支援制度(検討中)

- 宅地嵩上げ浸水対策促進事業
  - 「浸水危険区域」内の既存住宅の、住宅の改築(建て替え)および増築時に、地盤の嵩上げ(盛土、法面保護)工事、RC、ピロティ等工事の費用を助成

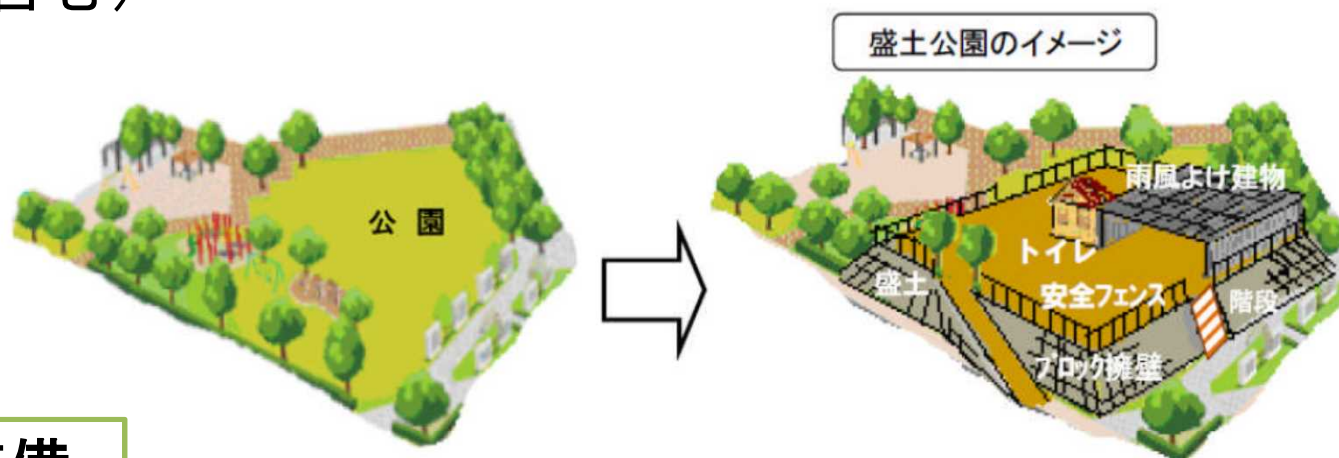


県から嵩上げにかかった費用の1/2、上限400万円を助成

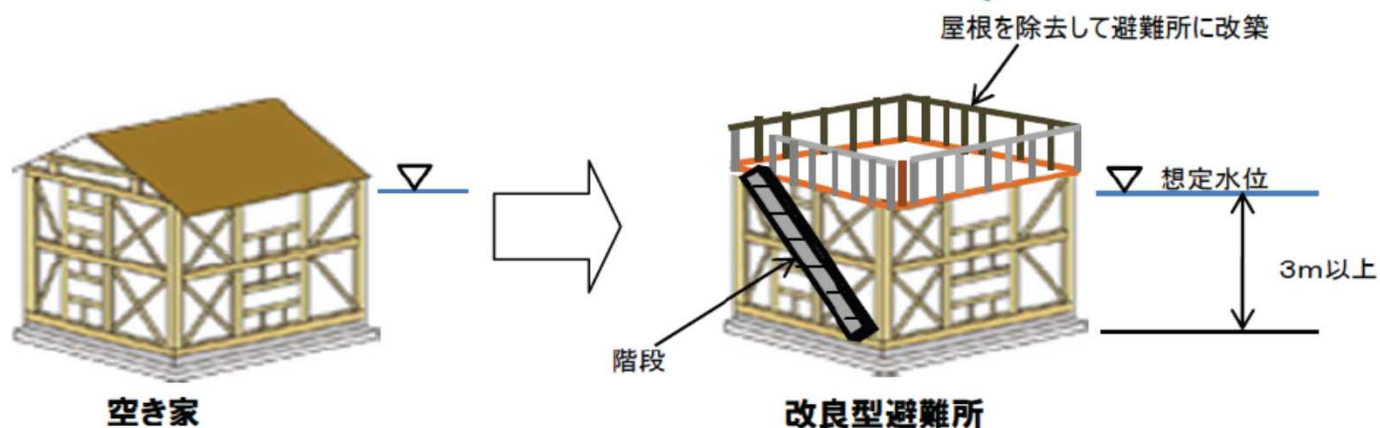


# 浸水深が3m以上の区域に現在お住まいの方 への支援制度(検討中)

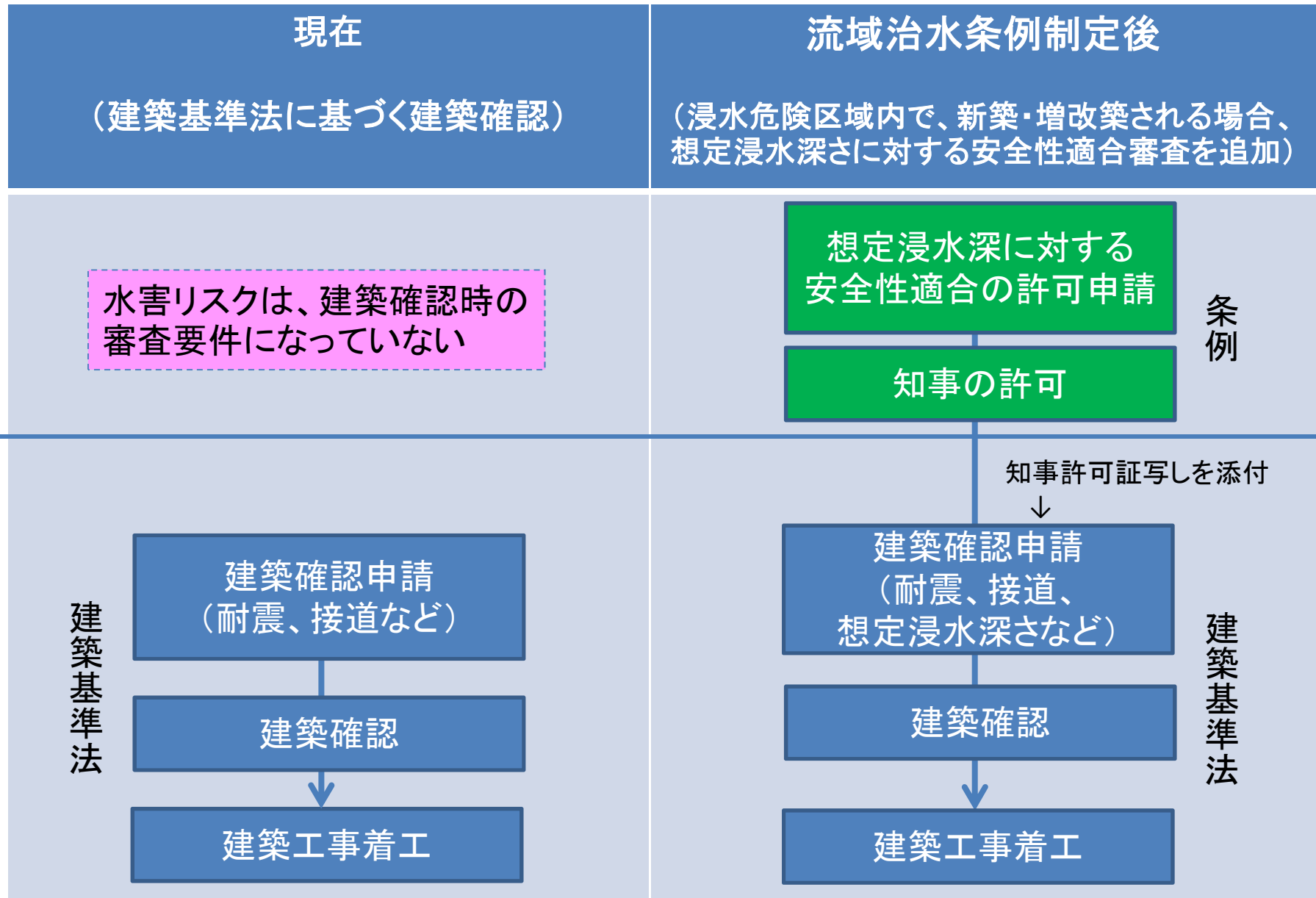
- 避難場所整備事業
  - 「浸水危険区域」に対して有効な避難場所の新設(改築含む)



行政が整備

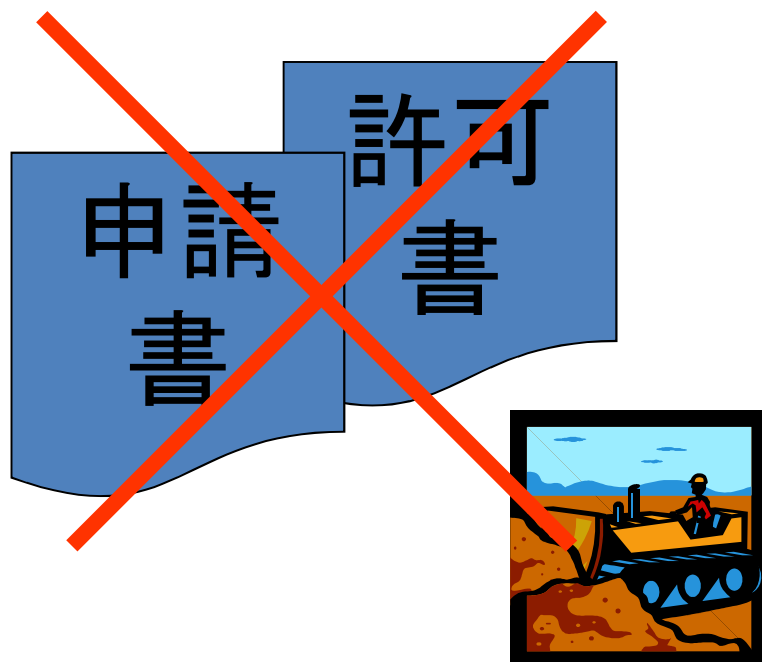


# 建物を建てる際の手続



# 罰則となる場合

許可を受けずに建築物を建築・工事に着工した場合



虚偽の申請・報告・届出・答弁をした場合

